

## 鹿本保健医療圏

### 1 圏域の概要

- 鹿本圏域は、県の北部に位置する面積 299.69 km<sup>2</sup>（県土の約 4.0%）からなり、山鹿市 1 市で構成されています。
- 交通アクセス面では、南北に国道 3 号線が通り福岡県と熊本市につながり、東西には国道 325 号線が通り、玉名地域と菊池地域につながっています。
- 圏域内を一級河川菊池川水系が流れており、幹線道路である国道 3 号線をはじめ、消防署や複数の医療機関等が浸水区域にあります。

### 2 圏域の現状

#### (1) 人口構造の変化の見通し

- 人口は、令和 4 年 10 月 1 日現在 47,634 人（県人口の約 2.8%）で、今後人口の減少が予測されています。高齢化率は、39.0%で、県の 32.1%より高い地域となっています。今後も高齢化は進むことが予測され、2040 年（令和 22 年）には 43.2%になると推計されています。

#### (2) 医療提供体制・患者の受療動向等

- 山鹿市民医療センターは中核病院として、他の病院及び診療所と連携し、医療の提供を行っています。また、透析実施医療機関は、1 病院 2 診療所あります。
- 60 歳以上の医師の割合が、国・県平均を上回っており（当圏域 57.9%、県 56.2%、国 51.4%）、医師の高齢化が進んでいるのに加え、後継者が不足しています。医師はじめ、医療・保健・福祉に係る人材が不足している現状です。
- 自己完結率は 67.8%、次いで隣接する熊本圏域 19.4%、菊池圏域 5.3%となっています。

#### (3) 基本的事項

構成市町村数	1		
人口	総人口（対全県比）	47,634人 (2.8%)	
	0歳～14歳	5,627人	
	15歳～64歳	23,423人	
	65歳～	18,584人	
	高齢化率	39.0%	
人口動態	出生率（人口千対）	6.7	
	死亡率（人口千対）	17.1	
	周産期死亡率（出産千対）	6.3	
	乳児死亡率（出生千対）	—	
	主要疾患死亡率 （人口10万対）	悪性新生物	348.1
		心疾患	283.9
		肺炎	136.8
脳血管疾患		116.0	

人口...出典：熊本県推計人口調査（令和 4 年 10 月 1 日）  
人口動態...出典：令和 4 年度（2022 年度）熊本県の母子保健  
令和 3 年人口動態調査（厚生労働省）

#### (4) 入院患者の動向

入院先	患者住所地	
	鹿本保健医療圏域 (%)	(人)
熊本・上益城保健医療圏	20.1	129
（再掲）熊本市	(19.4)	(125)
（再掲）上益城	(0.6)	(4)
宇城保健医療圏	0.3	2
有明保健医療圏	1.9	12
<b>鹿本保健医療圏</b>	<b>67.8</b>	<b>436</b>
菊池保健医療圏	5.3	34
阿蘇保健医療圏	0.0	0
八代保健医療圏	0.0	0
芦北保健医療圏	0.3	2
球磨保健医療圏	0.0	0
天草保健医療圏	0.0	0
県外	4.4	28

出典：平成 29 年患者調査（厚生労働省）

### (5) 医療施設の状況

(人口10万対)

	病院施設	一般診療所	歯科診療所	薬局
鹿本	6 (12.6)	32 (67.2)	21 (44.1)	17 (35.7)
全県	202 (11.8)	1,194 (69.5)	832 (48.4)	883 (51.4)

出典：熊本県医療機関一覧（令和5年4月1日時点）※休止中除く  
 熊本県推計人口調査（令和4年10月1日）  
 （薬局のみ熊本県衛生総合情報システムにて把握）

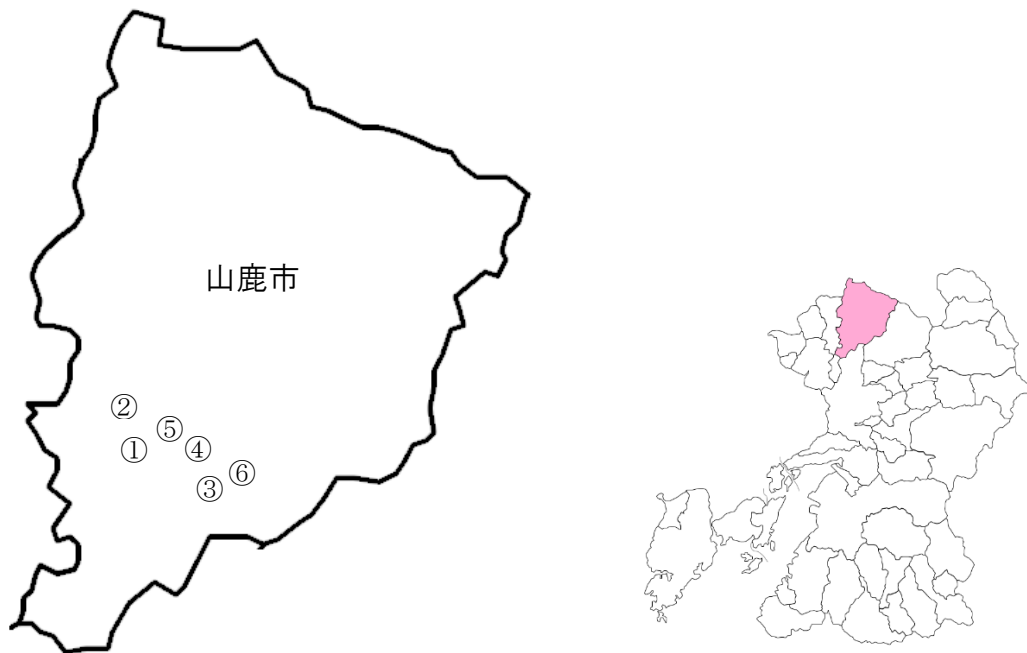
### (6) 病床数

(人口10万対)

	一般病床	療養病床	精神病床	結核病床	感染症病床
鹿本	522 (1095.9)	211 (443.0)	240 (503.8)	0 (0.0)	4 (8.4)
全県	19812 (1153.4)	7,278 (423.7)	8706 (506.8)	69 (4.0)	44 (2.6)

出典：熊本県医療機関一覧（令和5年4月1日時点）※休止中除く  
 熊本県推計人口調査（令和4年10月1日）

### (7) 医療機能



### 圏域内の主な医療機能

医療機能	がん		脳卒中	心血管疾患	精神疾患		認知症	在宅医療		救急医療	災害医療	新興感染症	へき地医療	周産期医療	小児医療										
	国指定がん診療連携拠点病院	地域がん診療連携拠点病院	県指定がん診療連携拠点病院	急性期拠点医療機関	回復期医療機関	急性期拠点病院	回復期医療機関	精神科救急	災害精神医療	措置入院指定	認知症疾患医療センター	地域在宅医療サポートセンター	在宅療養支援病院	在宅療養後方支援病院	二次救急	基幹災害拠点病院	地域災害拠点病院	感染症指定医療機関	へき地医療拠点病院	へき地医療支援病院	周産期中核病院	周産期母子医療センター又は生児中核病院	地域周産期中核病院（地域産新	小児中核病院	小児地域医療センター
①三森循環器科・呼吸器科病院																									
②山鹿温泉リハビリテーション病院																									
③山鹿回生病院																									
④山鹿市民医療センター																									
⑤山鹿中央病院																									
⑥保利病院																									

☆ 健康福祉政策課が、庁内各課からデータ収集中

### 3 圏域の重点課題と取組みの方向性

#### (1) より良い生活習慣の形成、生活習慣の改善

##### 【取組みの方向性】

#### (2) 医療機能の適切な分化と連携

- 有床診療所の無床化などにより、圏域内の病床数は減少傾向にあります。
- 2025年（令和7年）における医療機能のうち、回復期の病床は不足が見込まれるため、充足に向けて検討する必要があります。
- 平成29年度から鹿本地域医療構想調整会議において、医療機関の役割の明確化や連携等について協議を行っています。政策医療（5疾病・5事業及び在宅医療）を担う病院及び有床診療所等の特長を活かしつつ、今後さらに各医療機関の連携体制の強化・充実を図る必要があります。

##### 【取組みの方向性】

- 医療機関の適切な分化・連携の基礎となる病床機能報告の確実な実施に向けて、医療機関への周知・啓発を行います。
- 地域完結型の医療体制の構築に向け、鹿本地域医療構想調整会議において、医療機関の役割分担と連携、充実が必要な回復期病床の整備などについて、引き続き検討・協議を行います。
- 医療連携の効率化を進めるため、関係機関と連携を図りながら、「くまもとメディカルネットワーク」の活用を推進します。

#### (3) 外来医療に係る医療提供体制の確保

- 初期救急や公衆衛生、在宅医療などの分野においては、医療機関や対応医師の役割分担が図られています。今後は、医師の高齢化や診療所の後継者不足などの課題がある中でも、現状の体制を維持していく必要があります。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大時において、診療・検査を実施する医療機関の確保が困難であったため、新興感染症に備えるための対策が必要となります。

##### 【取組みの方向性】

- 現状の体制を維持するため、既存の医師にも引き続き協力要請を行うとともに、新規に医師が開業する際には、協力の意向を確認するなど協力医療機関・医師の確保に取り組みます。

- 新興感染症の発生及びまん延に備えるため、予防計画や健康危機対処計画を基に、診療・検査体制の充実や協力医療機関の確保に取り組みます。
- 鹿本地域医療構想調整会議において、患者の受療動向を踏まえつつ、外来医療において医療機関が担う役割の分化及び連携、地域で必要な診療科などについて、協議を行います。

#### (4) 糖尿病

【取組みの方向性】

#### (5) 精神疾患

【取組みの方向性】

#### (6) 在宅医療

【取組みの方向性】

(7) 救急医療

【取組みの方向性】

(8) 災害医療

【取組みの方向性】

(9) 健康危機管理に関する体制

【取組みの方向性】